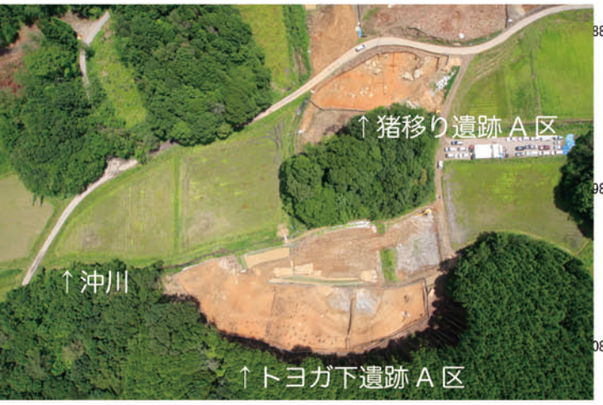
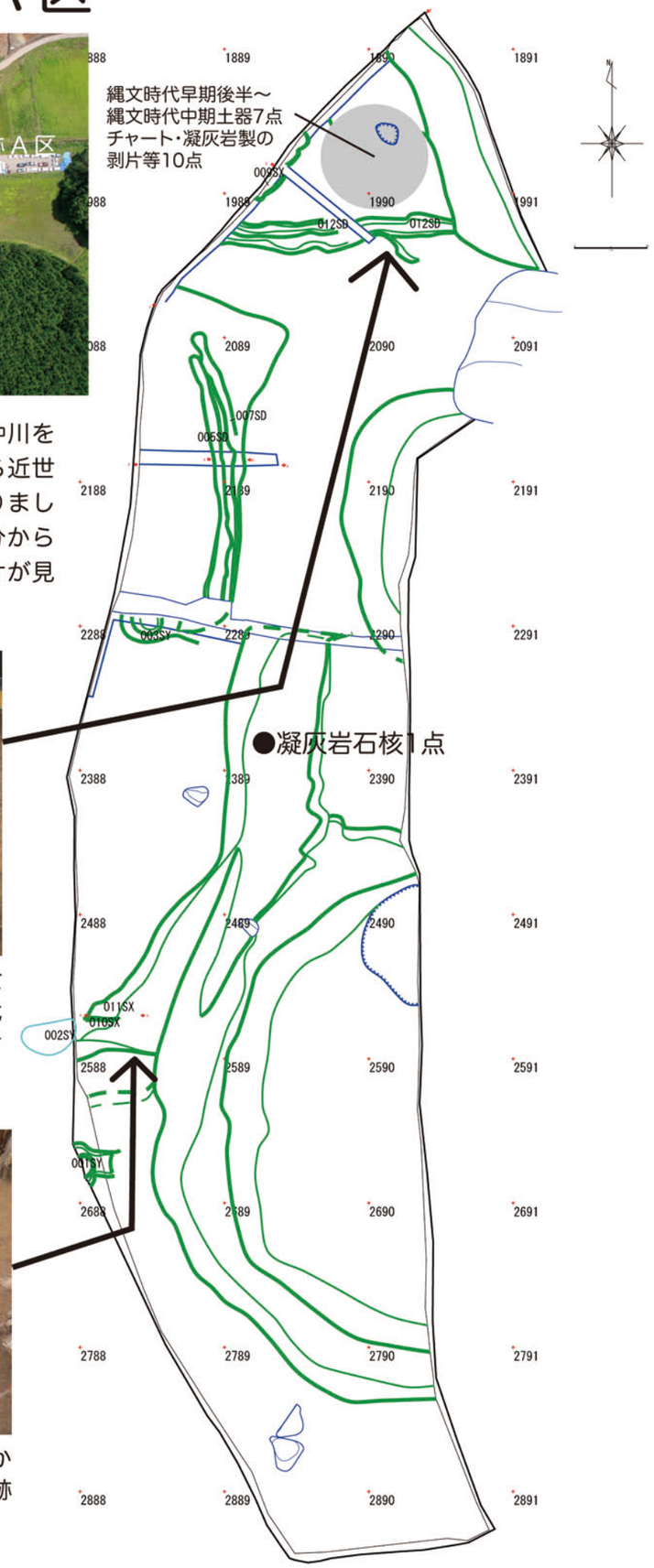
トヨガ下遺跡Ａ区



トヨガ下遺跡は、猪移り遺跡から沖川を挟んで西に隣接する遺跡で、中世から近世にかけての溝１条と道１条がみつかりました。出土遺物では、北端部の平坦部分から縄文土器と石器を作った時に出た剥片が見つかりました。

北端部の平坦面、山際に中世から近世の溝（012SD）、その下から縄文時代早期の土器と石器作りの時に出た剥片が出土しました。

近世以前の道のコーナー部分、北東から山を登って、西に折れて柿根田遺跡の谷に向かいます。



下山田代地区内遺跡発掘調査地元説明会資料

愛知県豊田市

猪移り遺跡

トヨガ下遺跡Ａ区

平成24年９月15日（土）

愛知県埋蔵文化財調査センター
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
国際文化財株式会社

猪移り遺跡

猪移り遺跡の所在する豊田市下山田代地区は、市域北東部の丘陵地帯にあります。 遺跡は下山地区を流れる郡界川の支流のひとつ、沖川の東岸にあたる標高430m前後の丘陵上に立地します。これまでにA,B,C区の調査を行い、縄文時代草創期、早期、中期後半～後期前半、そして平安時代を中心とした遺跡であることがわかってきました。

遺物が多く出土したのはA区、B区です。現在は道路によって区切られていますが、もとはひと続きの丘陵でした。 縄文時代には尾根上のやや北寄りの平坦な場所を利用していたようで、土坑のほか石器をつくる際にできる微小な剥片（チップ）の広がりが確認されました。 すぐ北側の斜面の凹みや谷の埋土には、有舌尖頭器（草創期）、石鏃、石匙、剥片石器、磨石・敲石、凹み石、石皿等の石器や各時期の縄文土器小片が混じり、竪穴住居のような明確な施設は見つかりませんでしたが、この付近で石器の製作やドングリ類の加工が行なわれていたのではと考えています。 またB区南側斜面からは平安時代の灰釉陶器の碗・皿が出土しました。

C区では石鏃、縄文土器、山茶碗、近世・近代陶磁器片、鉄滓が出土しました。

そのほかA,B,C区で近代～現代の炭焼窯跡が確認されています。

有舌尖頭器
（やりの先端に使う石器）

←柿根田遺跡　方面

435

猪移り遺跡　A区

石

石

炭焼窯

炭焼窯

015SK
（焼石が混じる）

石

石

017SK 完掘状況

遺物出土地点
石器
土器

0　10m
（S=1/200）

N

炭焼窯?

尾根上を通る林道跡（現代）

猪移り遺跡　B区

炭焼窯

炭焼窯?

440

021SK

022SK

炭焼窯

022SK上層（縄文早期土器）

022SK下層（焼石と石器剥片）

凝灰岩剥片→

押型文土器→